Yayoi Official library bulletin

弥やよい

第98号
平成23年11月25日
編集兼発行
弥生公民館
広報部
金沢市弥生1-29-13
TEL 241-1329

第50回 ～がんばろう！ 弥生～
弥生校下社会体育大会

日時 平成23年9月25日(日) 8:45～15:00
場所 弥生小グラウンド

中井実行委員長の挨拶

山野市長をはじめ多数のご来賓の方々をお迎えし、第五十回記念大会が催されることに感激し嬉しく思っている。この大会は、校下の方が一同に集まる一大イベントで、二十八町会の絆の原点です。皆さんの参加とご協力に感謝します。怪我のないように。

山野金沢市長の祝辞

秋晴れとなり、本当に良かった。地域や家族の交流、絆の大切さを感じる今、皆さんが車座となって一緒にお弁当を食べるこのような機会は素晴しいことで、繋がりが深まることを期待しています。

山本茂館長の挨拶

「今日の天候は秋の清々しい晴れやかさではないが、この一か月間に各地の公民館・学校・職場で文化祭が催されている。文化祭は体育系と違い、勝ち負けはないが、鑑賞し感動することで身となり血となる。弥生文化を楽しみ、一日を謳歌して欲しい。」との挨拶があった。

やよい文化祭
見まてみませんか!!
今の生活を
二〇二一年 十一月三日(祝・木)
午前十時～午後三時

躍動する児童たち
～弥生児童館の児童たち～

さわやかな歌声
～いずみ合唱団～

第50回 弥生校下社会体育大会

～秋晴れに二千人が集う～

第五十回弥生校下社会体育大会は、九月二十五日（日）秋めいた空の下、開催された。絶好の日和となり、約二千人の参加者はスポーツの秋を満喫した。参加者一同がグラウンドに立ち、多数の来賓が参列の中、開会宣言、国旗・公民館旗の入場・がんばろう！弥生プラカードの入場、国旗掲揚、中井実行委員長挨拶、山野市長祝辞、細川弥生小学校長挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、準備体操で開会式は終了。昔なつかしい『大玉ころがし』などの復活競技に、転びながらも懸命にゴールを目指す選手に観客から温かく惜しみない拍手が送られ、応援の声が響き渡った。昼食時には、和太鼓演奏、フォークダンスも登場。午後も、競技は順調に進み、応援も最高潮に達し、町会対抗リレー決勝で競技は終了した。閉会式後のみんなは、最高に澄んだ和やかな表情であった。

～町会対抗競技～

キックボール

ボールに追いつかず必死に走る人、輪の中に止められずあせる人。なかなかむずかしいのです。

大玉ころがし

懐かしい競技が復活。あの頃のようにはいかず、懸命に転がす中高年。元気一杯の小学生。赤青黄白のカラフルな大玉を転がす姿は、"がんばろう弥生"のスローガンにぴったり。

紅白玉入れ

玉を拾っては投げ！拾っては投げ！籠は小さく、あっという間に終了のピストル。

自主防災リレー

災害時は、慌てず落ち着いた行動が大切。運動会ではそううまくいかず、再競技のシーンもありました。

総合リレー

大声援の中、町会名誉のため力走する若者たちの姿はたのもしい。

二人三脚

イチニ、イチニ、息を合わせ軽やかに走るペアもあれば、ぎくしゃくし進まないペアも。復活競技です。

閉会式

閉会式は万歳三唱で、二十五年前と同じ締めくくりとなり、弥生校下の頼もしい声がグラウンドに響いていました。

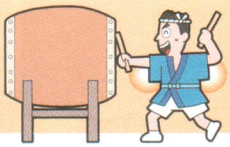
表彰式

総合	優　勝	泉新町第二町会・有松町会
	準優勝	泉町交友会
	第三位	泉が丘致芳会
総合リレー	優　勝	泉が丘親成会
	準優勝	生和会
	第三位	弥生が丘

開会式

選手宣誓は泉町交友会の寺分喜一氏。「東北では未曾有の混乱の中で未だ生活している現況があり、地域の絆をしっかりもとう」と力強く宣言された。

和太鼓演奏 アトラクション



昼食・休憩時のアトラクションとして、“和太鼓演奏”が開催されました。

泉町交友会青年部の皆さん、子供たち　弥生校下有志と参加希望した子供 総勢25名による演奏です。

楽曲は
- ”奇面太鼓(きめんたいこ)”
- ”鳴嶋(なるしま)”
- ”祭り(まつり)”
- ”新芽4(しんめよん)”

子供たちは、8月から公民館に集まり、計10数回の練習を重ねてきました。泉町交友会青年部の皆さんには、市民芸術村、浅野太鼓での練習の合い間に、子供たちの指導もしていただきました。初めての子供たちも、くじけることなく練習を続けました。

そして本番のこの日、すばらしい演奏が実現しました。太鼓の音が響き渡り、体が熱くなるのを感じながら、頑張っていただいた皆さんへの、温かい感謝の拍手が校下の絆を強いものにしてくれました。

練習の様子

名場面コーナー

賞品目指し、お母さんが先を走りすぎ、あわてて戻ってダッコ。ヨチヨチトコトコほほえましい**幼児20m競走**です

ハシゴを抜けて平均台を渡り、ネットをくぐる**障害物競走**。最初のハシゴを上手に抜けた人が有利かな

～あわてないで 落ち着いて～
それが**びんつり競走**の極意なれど…
なぜかあせるのです

吊られたパンが揺れて、上手くくわえられない人、くわえて懸命に走る姿は笑いを誘う**パン食い競争**

やよい文化祭

薄日のさす小春日和。やよい文化祭は、十一月三日（木・祝）、文化の日十時から公民館で開催した。ここ数年、弥生小学校と共同開催だったが、本年は単独での開催となった。オープニング会場は多くの人で賑わい催しを待ち望んだ。ステージのバックは、六児童館（弥生、平和町、中村、押野、富樫、扇台）の児童による和紙でアートした迫力満点の金沢城。四千五百枚のハッピと、六千枚の風船を和紙で折り、綺麗に染めて乾燥し、根気よく一枚一枚貼り付けて作った天守閣と石垣は、壮大で和紙を染めた青空と入道雲に、みごとに映えていた。関わった児童の心強さが感じられた。

詩吟・一輪車・THE 祭り（弥生児童館）

トップは児童による詩吟。岳水会の指導を受けた16人は元気いっぱいに声を張り上げ、姿勢正しく胸を張り朗詠した。「4月から始めたが児童の熱心な参加で思ったよりも上達が早く将来が楽しみ。練習時間が短く心配しましたが上出来」と先生より誉めていただいた。

引き続き5人の一輪車による演技。フラフープ・バトンを自由にあやつり会場から喝采を浴びた高度な演技だった。

「THE・祭り」では18人が出場し、法被を纏った獅子舞。太鼓のバチ捌きも堂に入っていた。まといを高く上げ、エイ、エイと声高らかに張り上げ、勇壮を感じた。

いずみ合唱団（泉中学校）

泉中学校保護者による“いずみ合唱団”の合唱。

- 曲目
  「見上げてごらん夜の星を」
  「夢をあきらめないで」
  「明日へのマーチ」
- 指　　揮／外松英俊さん
- ピアノ演奏／吉田珠美さん

夢をあきらめないで

乾いた空に続く坂道
後姿が小さくなる
優しい言葉　探せないまま
冷えたその手を　振り続けた

いつかは　皆　旅立つ
それぞれの道を歩いていく

あなたの夢を　あきらめないで
熱く生きる瞳が好きだわ
負けないように　悔やまぬように
あなたらしく　輝いてね

楽しそうに笑顔で、心を込めた感情一杯の表情で歌い、喝采を受けた。本当に良い曲を選曲され、聞いていて清々しい時間だった。

読み聞かせ（泉中学校）

だんだんころころ
●松井定子さん
20年のキャリアで新潟弁を交えられ、感情豊かな朗読。

桃源郷ものがたり
●泉中学校　2年
角永世良さん、
岡部修一さん
落ち着いた、さわやかな朗読。

やんすけと　やんすけと　やんすけと
●稲 乃梨子さん
7年の経験豊かな語り口で歯切れのいい、美しい朗読。

模　擬　店（弥生公民館）

屋外のテントでは、焼そば、綿菓子、飲料（オレンジジュースなど）新鮮な野菜（ネギ・大根・唐辛子・水菜・ピーマンそして、日用雑貨が多数並び、三階会場のオープニングセレモニーの終わった後に、参加者は列をつくり買い求めていた。

会場入り口では防災用具（防災ずきん・笛・LEDランプランカン・レトルト食品詰め合わせ）が販売された。また、料理で用意された〝ずんだ餅・芋煮・親子丼〟は、楽しく・美味しく食べていた。ほとんど完売状態で、午後二時には閉めるほどの盛況であった。

みどり学級

研修旅行「秋風に誘われて」

十月十二日(水)　三十五名参加

真青な秋空に心もはずみ、バスは白山ろくに向けて出発。白山ろく民俗資料館見学後、秋風爽やかな吉野工芸の里で昼食。午後は、林業試験場とふれあい昆虫館へ。豊かな自然と生き物にふれた素敵な一日でした。

石川公美さんミニコンサート

十月二十六日(水)　五十名参加

金沢を中心に声楽家として活動しながら、金沢ジュニアオペラスクールの指導もされている石川公美さんのコンサートを開きました。ヘンデルのオペラから一曲独唱のあと、「オペラとは」と歴史、成立ち、大勢の職種の協力で作られることを説明。実演の映像でトスカ、カルメン、アイーダ、フィガロのさわりを鑑賞。最後に「赤とんぼ」「千の風になって」を五十人みんなで斉唱。(竹田浩)

さくらセミナー・女性学級

ノルディック歩行を学ぶ

七月二日(土)　二十四名参加

講師に高森真一氏を迎え、今話題のノルディックウオークを体験した。ストックを利用した準備体操の後、歩行開始。ストックを使い腕を振って歩く事で、膝や腰の負担が少なく上半身の筋力は鍛えられる。ストックを握ったりゆるめたりすると血流が良くなり、運動量も倍増。さくら公園近辺を疲れることなく歩き、爽やかな汗をかいた。

防災ずきんを作りましょう

七月二十六日(火)　二十五名参加

地震の時、落下物から頭や肩を守ってくれて、ミニ座布団としても利用できるすぐれものの防災ずきん。カーテン地のハギレ布を利用して、簡単な作り方を学んだ。

年配の方は懐かしがられ、「雪除けの時もかぶれるわ」とか、若いお母さん達の「子供用もあるといいね」の声もあった。〝マイ防災ずきん〟をもつことで、防災で大切な自助の心がまえが少しでも広がることを願った。

楽しく食べて健康づくり

九月三十日(金)　二十八名参加

～野菜と発酵食品～

四十万谷直美氏

毎日の食生活と健康に欠かせない野菜と発酵食品。地域で親しまれる「お漬物の四十万谷本舗」の奥様で、シニア野菜ソムリエの直美氏から、身近な野菜や果物の機能と有効な摂取方法、簡単なトマト料理等、わかりやすくすぐに役に立つお話をたくさん聞くことができ、楽しく有意義な一時だった。

〝ピラティス体操〟を体験しよう

十月二十日(木)　十七名参加

～体の深層部の筋肉を鍛える～

講師　小高千保乃氏

「正しい胸式呼吸」・「良い姿勢」・「内側の筋肉を意識する」の三つが基本。先生のしなやかな筋肉に見とれつつ、穏やかな動きと呼吸を意識して体操した。

泉中学校文化祭に公民館環境部が参加

十月二十九日(土)

教室の一角に、『アクリルたわしの作り方』と『独楽回しの遊び方』を教えるコーナを設け、元気な生徒達と楽しんだ。又、古着をリサイクルした小物や、今夏の節電やCO_2の図表、堆肥作りの熟成度調査表等も展示。「身近なエネルギー考」の関心度調査にも参加してもらった。

泉中学生のキャリア体験

九月二十七日(火)～二十九日(木)　十一名参加

九月二十七日～二十九日の3日間、泉中学2年生計11名が、職場（キャリア）体験を公民館で行った。初日は女性学級スタッフが講師となり、〝防災ずきん作り〟。午後からは、弥生サロンの防災講座に参加した。教える方も、教えられる方も一生懸命。貴重な〝マイ防災ずきん〟ができあがった。講座で学んだ減災対策も彼等の今後の貴重な体験になるだろう。

“マイ防災ずきん”の公開

特集

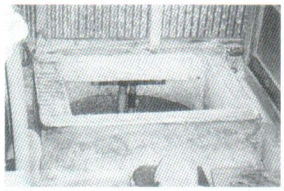
やよい今昔を顧(かえり)みて

第六回 弥生の原点

くらしの移り変わり

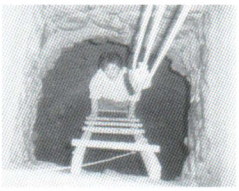
今、防災の面からいざという時に頼れる地下水が見直されているが、校下には幾つかの井戸が残っていることが解った。六斗林や泉の通りではどの家も井戸水を生活用水としていた。泉が丘の相河さん宅の井戸は埃が入らないように板や鉄板で覆い、横には太いつるべ用の綱が巻いて置かれている。再使用があるかもと思い保存しておられる。覆いを外すと今も真っ青な水。覗き込むと透きとおった水が十メートルはあり、深井戸の底に湛えられている。現代は電気のポンプで水がくみ上げられ、洗濯や畑にふんだんに使われている。

また、弥生地区は地盤が堅いため、それぞれの家の地下に作物を貯蔵するための芋穴を持っていた。井戸所有の相河さん宅でもあり、炬燵板くらいの大きさの鉄板を上げると、淵は石を綺麗に組んで仕上げてあり、あとは岩盤がむき出しの壁で下は真っ暗で見えない。八段の梯子を掛けて上が未だ余る位だ。



広さは六畳くらいで瓢箪型をしている。思ったよりも広く涼しい。収穫の多い時は首まで芋に埋まる程だったという。泉の芋穴は特に保存状態が良く、他から頼まれたり貸したりすることもあった。夏は青りんごを入れたり、生姜を入れる生姜穴もあったとか。その土地に合った暮しの知恵を働かせていた昔の人たちのことを思うと、今の私たちの生活ぶりが反省させられる。

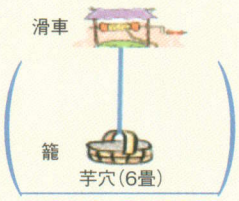
平成十年　坂本朝子氏記より抜粋



～十三年後の様子～

取材の後約十三年が経過し、どうなったでしょう。相河さんのお宅を訪ね、その後の様子をご紹介します。

芋穴は、現在は砂などで埋められており、使用されていませんでした。埋めるにも、何と約6トンの土を使い、崩れがないように苦労なさったとの事。但し、当時の滑車、梯子は大事に保管されていました。今でも、利用は可能とのこと。一方、井戸の水脈は依然として不明ですが、十三年前と変り無く、今でも野菜洗い、洗車などに利用されているとのことです。



やよい文化祭（創作作品より）

絵手紙教室

俳句教室

干支の押絵

押し花教室

籐手芸

弥生パソコン学楽会・詩吟

スクエアダンス・手話ダンス

弥生コーラス・ボイストレーニング・英会話

弥生絵画サークル

習字教室

やよい写真教室

弥生少年連盟

防犯委員会

社会福祉協議会 ボランティア協議会

広報・保護司会

あとがき

「もったいない」を合言葉に節約・倹約の精神を全世界に訴えた環境活動家でノーベル平和賞を受賞されたマータイさんが九月に逝去。日本経済の発展・技術革新に驚嘆されたが、東日本大震災では、「自然を愛し、自然に感謝する気持ちを持ち続けることが人間としての基本的な姿勢」と忠告・苦言を呈された。自然を大切にし、子孫のために残したいものです。（南）